



花火による子どものやけどに 気をつけて



©Kurosaki Gen

事例 1

花火がサンダルの上に落ち、右足の指と足の裏にやけどをしてしまった。
(当事者：2歳)

事例 2

花火を振り回した直後に、風で火花がスカートに飛んで着火し、燃え上がった。保護者がはたいても火が消えず、服を脱がせたが、右太ももにやけどを負った。
(当事者：6歳)

事例 3

手持ち花火が終わって、下に落ちていたものを触ってしまい、右手の指にやけどを負った。
(当事者：1歳)

ひとことアドバイス

- 花火による子どものやけどは、特に1歳から3歳で多くなっています。花火で遊ばせる際は必ず大人が付き添い、3歳以下の子どもに花火を持たせることは避け、距離を置いて見せるなどして楽しむようにしましょう。
- 肌の露出が多い服や履物の場合、火花等でやけどの危険性が高まります。裾が広がった服やスカートに着火する事故も起きています。服装にも注意しましょう。また、万が一着衣に着火した場合の対処法も覚えておきましょう。
- 花火の風下には立たせないようにし、風が強い場合は花火遊びはやめさせましょう。
- 花火で遊ばせる際には、消火用の水を用意するなど準備をしましょう。
- 製品に記載されている注意事項を必ず守って使用しましょう。

さぼーとくん



発行：独立行政法人国民生活センター 本文イラスト：黒崎 玄

長崎市消費者センター (長崎市築町3番18号メルカつきまち4階)

相談専用電話 **095-829-1234** または 消費者ホットライン **188**

時間 **10時~17時** (土日祝も可 月曜定休)